

57年度は行政財政改革年の年

固定資産税率の引き下げ

三月定例市議会は三月十二日開会、二十五日までの十四日間の日程で開かれました。小笠原市長は、五十七年度当初予算の提案理由の説明に先立ち、新年度の行政運営について「施政方針」を次のように述べました。

施政方針要旨

ここ数年未安定または低成長時代のなかで、行政改革は避けて通れない時期を迎えました。

改革は、機構、財政規模の肥大を抑え、限られた財源の中でいかに効率よく市民の皆さんの需要を適合させるかにあると思います。南国市の財政再建の基本もそこにあり、財政再建審議会の指導をいただいで現在に至っています。

財政

市民負担の軽減の一つとして必要の強かった、固定資産税の税率を百分の一・七から一・六に引き下げたいと思います。



施政方針を述べる小笠原市長

次に三和支所の廃止を執行し、機構の簡素化と経費の節減に努めます。また、職員数も極力抑制する方向で検討しています。その他退職手当など給与面での適正化を図るため、他市との均衡などを考えて協議しています。

空港

空港整備については、三十四億余万円が要求通り認められ、五十八年度開港に大きく近づこうとしています。ジェット化は大きな時代の流れでメリットは大きいものの、地元にとっては騒音の防止など環境対策が重要な課題です。

国が防衛措置をする区域（コンター）の指定は、三月中にも決定告示が予想されています。現在南国市の要望を運輸省に提出しています。

吾岡山の跡地利用については、まず排水対策などの整備を五カ年計画で着手することで高知県との合意を得ています。

ジェット化後の「臨空型工業」の工場誘致運動については、県が積極的に取り組むようですので、南国市もいっしょになって可能性を追求すべきだと考えます。

空港ターミナルビルは、新空港の開設と運営に歩調をあわせて設

計が順調に進んでいます。

同和

今後多くの施策を要することにはもちろんですが、五十六年度で期限切れとなるいわゆる特措法に代る五年間の期限立法が成立することになっています。

五十七年度の最大の課題は、小集落整備事業をいかに消化するかにあると思います。この中には、空港に関連する切戸放水路施工地域が含まれています。

比江山

一〇社の木材工業団地は、多くのむづかしい問題をくり返しながらかもようやく昨年引き渡しを終り、現在十三社が操業しています。収支決算では欠損となつていますが、市民の就労や税収など、今後市の利益につながるものと信じています。残りの土地は、県に買っていただけ強く働きかけていきます。

し尿処理場

新しい処理場は、岡豊町荒本を候補地とし地元と話し合いを進めていますが、反対もあり、納得には時間がかかることが予想されます。今後とも、廃棄物処理委員会の意向も伺いながら積極的に対処します。

教育

教育の基本といわれる小・中学校の整備が遅れています。急を要する岡豊、稲生、十市などの校舎改築が目白押しになっています。財政上の制約があつて、ご父兄のみなさんにご迷惑をおかけしていますが、なお早期に実施出来るよう研究中です。

総合計画

赤字に悩む南国市は、五十年から「財政主導型」の行政をとらざるを得ませんでした。基本的には総合計画をたてて、それに従つた行政を行わなければなりません。

行政の変革期といわれる新年度を迎えて、総合計画作りは急務だと考えます。

※五十七年度一般会計予算などは、次号でお知らせします。

3月定例議会

総合計画は新年度着手

一般質問は、十六・十九日までの四日間行われ、今井、島崎、竹内、溝渕正、浜田、井上、森尾、山崎、門田、岡林、山本、吉村、山岡、小沢の各議員が、市長の政治姿勢や財政、空港、同和、し尿処理場などの問題について、執行部の考えをたずねました。今議会は、新年度の市政を方向づけるだけに、ただでさえ一番の盛り上がりを見せる所へ、「し尿処理場」設置をめぐって、執行部の地元（岡豊町荒本）への対応など鋭い質問が続き、地元からも連日二十人ほどが傍聴に訪れ、「し尿処理場設置」の「道」のけわしきを見せつけました。執行部の答弁のあらましは次のとおりです。

一般質問

○財政再建計画

財政は確かにきびしく、比江木材団地も欠損となったものの、長期的に見ると、南国市の利益になると思います。人件費は歳出の大きな部分ですが退職の一部不補充などで改善中です。再建団体入りは望んでいるわけではなく、自主再建で臨みます。再建のために、手持ちの財産は、できるだけ早く処分するよう努力します。

財政の赤字には責任を感じている。事業費、民生費、人件費など、なかなか削れない経費だが、三十五年ぐらい先の計画は、早急に作らなければならないと考えています。

○空港

国の騒音対策区域（コンター）の最終案では、防音対策範囲三百十二ヘクタール、四百六十戸のようです。ジェット機が実際に飛んでから調査し、範囲の再見直しも可能だと思っています。

○同和

同和団体の予算配分は、常に心を配っています。小集落事業は今の所約百七億円（野中地区）となつています。これを新しくできる法律にあわせて年次計画をたて実行します。

○し尿処理場

し尿問題は永年の懸案事項です。黒滝の処理場と穴内ダムの赤潮発生問題は、直接関係あるとは思いませんが、山田町ともよく話し合つて円満解決に持っていきたい。

新しいし尿処理場を荒本へという問題で、地元から反対の声が大きくなつていますが、いろいろの面で配慮が足りなかったと反省しています。部活のみなさん全員が反対というわけでもないので、誠

心誠意努力します。

この施設が、どうしても必要なことを理解していただいて、きらわすに、とにかく話し合いのテーブルについていただきたい。

施設や技術の面でも、昔よりはずいぶん進んでいます。

財政負担もたしかに重いのですが、至上命題として取組みます。他の市町村との共同設置は、今の段階では、むづかしいと思います。

○総合計画

企画財政課で、半年をメドに、四月から本格的に取り組みます。「絵に書いた餅」にならないように、財政再建とマッチしたものを作りたい。

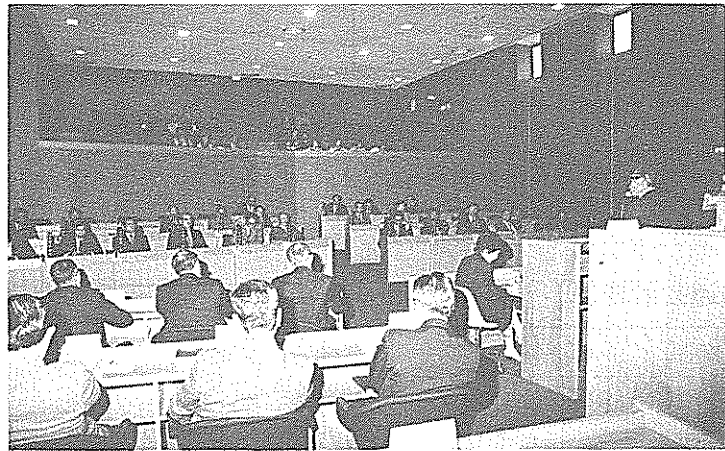
○企業誘致

企業は、まず利潤を追求するので、容易には来ないと思います。空港整備と同様、南国市が「身銭をきる」ことはできません。

○学校の整備

岡豊、稲生、十市など学校の改築が目白押しに並んでいます。どうしても急を要するものについては、例えば「学校建設公社」で実施ということも考えられますが、なお検討しなければなりません。

きびしいし尿処理場設置



傍聴人が多かった三月定例議会